

第 374 回研究報告会（2025 年 1 月 20 日）

「博物館の脱植民地化をめぐる：収集という過去にいかに向き合うか」

土井 冬樹（天理大学国際学部講師）

人類学系の博物館は、さまざまな地域の民族集団からモノを収集し保管してきたが、その収集に植民地主義的な権力が関わっていたことが指摘されてきている。そのことを問題として取り上げ、権力の不均衡や過去の不正義を認め、そこから脱却しようとするのが脱植民地化である。

ニュージーランドの先住民マオリは、1840 年以降イギリスに

よる植民地化を経験し、1970 年代から先住民運動を始め、権利の（再）獲得を目指してきた。その過程には、先祖の遺体や人骨、副葬品等の博物館による不当な収集について、返還を要求することも含まれている。博物館の脱植民地化の議論と実践は続けられ、近年は、返還だけでなく、博物館の収蔵物をソースコミュニティが利用する機会も作られるようになった。ニュージーランドでは、博物館とソースコミュニティの継続的なパートナーシップが重視されるようになっていく。

本発表では、ニュージーランドの状況についてまとめた上で、植民地主義 / 帝国主義を採用していた日本において、現在博物館がどのような対応をしているのか、その課題について論じた。

2024 年度おやさと研究所 特別講座「教学と現代」

『天理教台湾伝道史』刊行記念 台湾伝道を振り返る

天理教の台湾伝道は 1896 年（明治 29）、古谷マツ姉の渡台から始まり、翌年には「おさしづ」を仰いで、山名分教会（当時）により海外初の教会である台中教会が設置されました。その後 1934 年（昭和 9）には台北市内に台湾伝道庁が設置され、昨年 2024 年（令和 6）11 月には創立 90 周年記念祭を行いました。

おやさと研究所ではこの度、『天理教台湾伝道史』の刊行を記念して、『天理教台湾伝道史』刊行記念台湾伝道を振り返る』を開催します。台湾伝道に関わる皆様、また広く海外伝道に関心をお持ちの皆様にはご参集を頂けましたら幸いです。※事前申し込みは不要です。直接会場にお越しください。

日時：2025 年 3 月 27 日（木） 14:00~16:20

会場：天理大学研究棟 3 階第一会議室

プログラム

14:00-14:05	開催挨拶	井上昭洋 所長
14:05-14:15	①伝道史の編集の経緯	金子昭 研究員
14:15-14:30	②戦前の台湾伝道史	山西弘朗 香川大学 非常勤講師
14:30-14:45	③戦後の台湾伝道史	高佳芳 元海外部員
14:45-15:00	④天理教婦人会の伝道	堀内みどり 主任
15:00-15:15	⑤台湾伝道史の一齣	中西牛郎と高見庄蔵 佐藤浩司 元研究員
15:15-15:25	休憩（10 分）	
15:25-16:10	質疑応答	全員
16:10-16:20	総括と挨拶	三濱善朗 本部員
16:20	閉会	

〔共催〕天理総合人間学研究室、天理ジェンダー・女性学研究室、伝道史料室（第 9 回伝道フォーラム）

グローバル天理

第 26 巻 第 3 号（通巻 303 号）

2025 年（令和 7 年）3 月 1 日発行

© Oyasato Institute for the Study of Religion
Tenri University

発行者 井上昭洋

編集発行 天理大学 おやさと研究所

〒 632-8510 奈良県天理市杣之内町 1050

TEL 0743-63-9080

FAX 0743-63-7255

URL <https://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/index.html>

E-mail oyaken@sta.tenri-u.ac.jp

おやさと研究所（HP）



印刷 天理時報社

Printed in Japan